

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600055		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム らいぶ		
所在地	〒034-0093 青森県十和田市西十二番町16-2		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその人らしい生活が送れるように、個々に合わせた介護計画を作成し実践しています。家庭的な雰囲気が入居者様が安心して生活できる環境作りに努めています。コロナ禍の中、ご家族様へ定期的に生活の様子をお知らせし、信頼関係の構築に努めています。
官庁街通りに近く、祭りや桜、紅葉と四季を感じ楽しむことが出来ます。また福祉避難所に指定されておりガスの自家発電があります。非常時は、炊き出しが出来る機材があり、地域住民に提供することが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

官庁街通りに立地された事業所は、春には満開の桜並木を堪能でき、市をあげての様々な催し物の見学など、十分に四季を感じ楽しむことができている。また、コロナ禍においても家族との絆を大切に、細心の注意を払いながら面会も制限せず、入居者がその人らしい生活が送れるように、全職員が、安全で安心な暮らしができるよう取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目のつく場所(台所、廊下、職員トイレ)に掲げ、意識付けをしている。	定期的に見直しされる法人のスローガンに、事業所の理念が沿っているかを確認し、職員の目のつく場所に掲示することで、意識しながらケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、行事・活動へ参加している。(今年度は自粛)	町内会へ加入することで、町内の奉仕作業や行事を確認し参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様へ、入居者様の支援方法や対応した時の言動等の違いを情報として伝えている。 ボランティアが来所した際は認知症の方々への個別の対応方法や特徴を教えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、今年度は生活の様子の報告となっている。ご家族様からの要望等の聞き取りを行っている。	コロナ感染症予防対策により、今年は文書でのやり取りを主としているが、民生委員や自治会、市役所担当者、家族等へ事業所記事を報告している。報告内容に意見がある場合については、職員で話し合いを持ちケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所高齢介護課からの連絡等により、情報やアドバイスを頂いている。	会議の開催は、コロナ感染予防対策により実施していないが、事業所から市役所に出向き、相談や報告を月に数回行い、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の活動によりマニュアルの確認や園内勉強会を行い、身体拘束廃止を学習し理解したうえで実践している。	身体拘束は行っていないが、定期的に勉強会を行い、拘束の内容について理解し、日ごろのケアの確認を行っている。夜間は防犯のため施錠するが、日中は施錠せず玄関の出入りが分かるように鈴や音楽を流すなど工夫をしながらケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内勉強会にて高齢者虐待防止の理念を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されているご家族様からの情報や資料の閲覧により学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、疑問点についても確認し、都度説明している。また、重要事項説明書の内容変更の際にも同意のサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等へ上げられた意見や要望は、会議録の回覧で情報共有に努めている。会議等に参加できなかった方には会議録を郵送している。	面会時等にできるだけ家族に声をかけて、要望などを確認するように心がけている。苦情箱の設置もし、郵便物の郵送の際にも意見を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務や職員会議において職員の意見を聞き、業務改善に取り組んでいる。会議に参加できない職員からも意見を聞き当日の会議の議題としている。職員との面談を実施している。	毎月の職員会議前に、職員から業務について意見を聞き出し、会議の議題として話し合っている。会議で出された意見や提案はケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を通し個々の思いに触れ、向上心を持って働けるよう業務条件を整備し、個別の努力や実績を認め、働きやすい環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の力量や可能性を見極め、外部研修への参加と報告会の実施、又園内勉強会による知識習得の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や外部研修参加時に情報交換を行い、ネットワークを広げてサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの要望の聞き取りや、日常生活の様子から言葉で表すことのできない本心を探り、入居者様に寄り添い信頼関係を築き安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定するとご家族様と連絡を密にとり、不安除去に努めている。又入居前の介護支援専門員と連絡を取り、入居後のサービスがスムーズに開始できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族様の意向を確認したうえで、入居後の入居者様の観察を行い必要としている支援の提供に努めている。又ご家族様から、入居前との違いを聞き取りケアプラン作成に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の自立度を把握し出来ることを見守りし、出来ない事も誰かと一緒に行えば出来る場合もある。入居者様同士で支えあい行う環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様へ通信文を送り、日常の様子を伝えている。又、面会時には近況や支援内容を伝え、互いに入居者様を支援する立場としての関係性を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域への散歩、外出等を行っていたがコロナ禍の中では、見慣れた桜並木の映像を見たり、ご家族が持参された本や写真、衣類等を紹介している。	例年であれば桜の花見の外出で馴染みの商店街で楽しんでいるとのことだが、今回は職員が桜並木を撮影して見せている。コロナ感染症拡大防止のため訪問を制限しているが、馴染みの理髪店は定期的に訪れてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特性を把握し、役割を持ってもらうことで互いに支えあう(声を掛け合う)関係性が生まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した場合でも相談を受けることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し今までの生活の把握をし、入居者様にとって望ましい生活がどのようなものかを、日々の言動から読み取りケアに活かしている。	定期的にセンター方式を活用し、本人の思いや意向を確認している。その他にも、日々の生活の中でもコミュニケーションを図りながら、思いなどを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し状態を把握している。今までの生活において馴染みの物などを持参され、各自の居室に置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを把握し、日常生活においてどのように過ごしているかを記録し、職員同士の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの要望の聞き取りや、職員が日々の生活の中から気づいた事、感じている事を話し合い、介護計画に取り込み作成している。	計画の見直し前に、家族に意向や要望の確認をしている。その上で計画書を作成し、面会時や郵送にてサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常における言動やケア時での気付きや変化を記録に残している。職員会議やカンファレンス時に入居者様の現状を確認し、情報を共有し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況に合わせ受診の対応をしたり、車椅子使用者の外出には自宅送迎の支援を行っている。ご家族様の要望には柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店・町内会等と連携を図り、買い物・散歩等を行い楽しく暮らせるよう支援している。今年度は自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は出来るだけ入居前と変更せず、今までの生活を継続できるよう支援している。車椅子使用等でご家族様が対応困難な場合は、事業所が対応している。	入居前のかかりつけ医を継続し、家族にも受診の支援などを協力してもらっている。変更しないことで、今までの生活を継続できている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置になっていないが、状態変化がみられた際には、同法人の看護職員へ相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ情報提供を行っている。定期的に面会を行い状態の把握に努めている。退院時には病院・ご家族様と連携しスムーズに受け入れ出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは看護職員の配置が無いことから、医療行為が出来ない事を説明し了承を得ている。又、ご家族様とは入居者様の状態変化がみられてきた場合にどのような選択肢があるのかを話あっている。過去にあったターミナルケースを事例として具体的な情報も提供している。	事業所として対応が可能なこと、困難なことを丁寧に説明し入居していただいている。状態変化がみられた場合は、主治医や事業所と家族で話し合いをもち、家族には不安なく過ごしていただけるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の勉強会の実施や事故・ヒヤリハット発生時には報告書をもとに対策や今後の方針について検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災想定避難訓練の実施や風水害時の対応についての勉強会を実施している。	夜間想定災害訓練を全職員が訓練できるように設定し実施している。水害等の対応についても勉強会を重ね有事に備えている。暖房器具等の備品や食料の備蓄も整備するとともに、福祉避難所としての指定もあり、炊き出しも行えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会や「尊厳・接遇」に関する勉強会を実施し、ケアの質の向上に努めている。	勉強会を重ねてケアの質の向上に努めるとともに、職員が互いに注意しあえる関係である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを伝えやすいように雰囲気作りを大事にしている。また、自己決定できるように認知症状に合わせた言葉かけや方言を用いる等の工夫して発言を引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活歴を把握するとともに、その日の状態に合わせた入居者様のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で整容を行い、季節に合わせた衣服の着用に努めている。自ら選択できる方には好みの衣服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の誕生日には嗜好を伺い外出に出かけている(コロナ禍で自粛)。個々の能力に応じて、皮むき等の下準備、お盆・食器拭き等の片付けを職員と行っている。	食事準備や後片付けを手伝ってくれる入居者が複数名おり楽しみながら行っている。また、食べたいものを聞き取りしたり、畑で収穫したものを調理することで会話も増えるなど、楽しめる工夫がされてある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量に合わせて食事・水分摂取量を記録に残している。可能な限り自己摂取できるように介護食器具、テーブル等を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に合わせた口腔ケア(舌ブラシ等の使用)を行い清潔保持に努めている。また、自分で行える方には行ってもらい不足な所を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を記録に残し、排泄パターンを把握するよう努めている。自ら訴えることの少ない方も排泄前の行動パターンをつかみ都度誘導している。	個々の排泄状況を記録にし、本人の排泄パターンを把握している。また、表情や行動をとらえて誘導することで、失敗が少なくなるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や、起床時の水分補給、体操の他、個別の水分追加や歩行運動により出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を実施している。拒否や受診の場合は順番や日にちを変更し対応している。体調不良の際にも日にち変更や清拭・足浴の対応を行っている。	毎日入浴できる環境であり、本人の気分に合わせて曜日や時間の対応と、重度化した場合でも、リフト浴での入浴も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温に配慮している。加湿器やエアコンを適宜使用し本人の意向や、状態により休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を把握し、主治医の指示通りに服用している。飲み忘れが無いように薬箱やケース記録ファイルに薬情書を載せている。新規・変更の内服薬時は状態を記録し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみややりがいを知り、生活歴や能力を生かした活動を提供し気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日や入居者様の体調に合わせて散歩等に出かけている。入居者様に影響がなければ業務を変更しドライブ等に出かけ気分転換を図っている。(コロナ禍で自粛)	コロナ感染症予防対策により今年度は自粛したが、いままでは、計画的に外出し、楽しんでいた。公用車が2台で、自由に外出できるため、コロナ収束後は、計画していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を所持している方はいないが、出来る方には外出時に入居者様にお金を出してもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をする事はないが、入居者様から希望がある場合にはご家族様等へ連絡をしている。年始には挨拶として年賀はがきを作成ごし家族様へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節に応じた装飾を行っている。ホールやサンルームで日光浴をしながら畑の草花を眺めることが出来る。室温・湿度、テレビの音量に配慮している。行事等の写真は定期的に張り替え、見る人を楽しませるよう工夫している。	大きな窓からはたくさんの陽光を取り込み、明るい共有空間となっている。外の様子で十分に季節を感じ取ることもできるが、室内も様々な工夫で季節感を取り入れ、心地よく過ごす事ができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様間の人間関係に配慮し食堂の席を決めている。活動時は席の移動は可能で、参加者同士集まる事が出来る。またホールのソファではのんびりとくつろいでいる姿が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等は今まで使用していた物を持参して頂き安眠につなげている。また、居室内には自宅で使い慣れた物、愛着のある物を持参して頂き安心して生活が送れるように配慮している。	在宅時に使用していた寝具類等を持ってきていただき、安心できるようにしている。写真や大切にしているものを部屋に置くことで、安らぎを感じることもできている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の歩行状態や心身の状況に合わせて居室を設定している。また、複数のトイレがあるが『一人ひとりがわかる場所』として認識出来る様、排泄介助時は個別に使い分けている。		